
ラブカクテルス その28

風 雷人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラブカクテルス その28

【Nコード】

N1031D

【作者名】

風 雷人

【あらすじ】

今宵は普段気にもしないようなところから聞こえてくるレシピでカクテルをお作りして見ました。ご賞味あれ。

いらっしやいませ。

どうぞこちらへ。

本日はいかがなさいますか？

甘い香りのバイオレットフィズ？

それとも、危険な香りのテキーラサンライズ？

はたまた、大人の香りのマティーニ？

わかりました。本日のスペシャルですね。

少々お待ちください。

本日のカクテルの名前はスパイラルでございます。

ごゆっくりどうぞ。

俺はボルト。

知ってるかい？

俺達が出来る前はリベットっていつて、穴にそいつを入れて頭を潰して抜けなくするのが支流だったが、奴らは取り外しが厄介。

そこいくと、俺達ボルトは回すだけで、締める事も外すことも出来ちゃう。

どうだい？。凄いやと思わないかい？

俺が生まれた時は、１０ミリで短いボルトだった。

俺はドリルの持ち手を固定するのが初めての仕事。

しかし、毎日毎日振動と、埃まみれでかなりツライ生活だった。しかも扱いは雑で、油も注してもらえないし、ろくに掃除もされずにとうとうドリルの刃先の留め金が折れて、俺はドリルと共に廃棄処分になって解体された。

それほど長い仕事じゃなかったが、はじめてのボルト生活にしてみれば、こんなものか。

溶かされた俺は、次にもう少し太いボルトになった。

今回の仕事はラジオの本体を合わせて留めるボルトだった。

前とは違い、心地よい音楽が俺をいつも楽しませてくれた。

いい気分だ。やはりボルトも捨てたもんじゃないと思った。

でも俺が留めているラジオから、嫌なニュースが聞こえてきた。

戦争を始めたのだと言う。

俺達ボルト業界にはかなりの影響が出る話に、みんなが耳を傾けた。そしていくらか経たないうちに俺達は招集されて、分解されることになった。

俺は戦闘機の翼を支えるボルトになった。

空を飛べるなんて最高だ。

ボルト仲間達は皆、俺を羨ましいがった。

しかし、現実はそんなに甘くはなかった。

次々に仲間のボルト達は戦闘機の機体などと共に、バラバラと散って行った。

海に落ちてしまった奴らはきっと、また戻ってくるのは難しいだろう。

俺達も明日は我が身だった。

そして、ある日俺の機体もやられる羽目になった。

敵の銃弾は、俺の支えている主翼に飛弾して、みるみる炎が俺の周りを覆った。

もうだめだ！墜ちる！機体はバランスを失い、真っ逆さまになって墜落した。

しかしそこは何とか、陸地だった。

俺はボロボロになりながらも、ホッとした。

そして俺はそれからしばらくの間、そこで眠ることとなった。

戦争は終わったようだった。

俺はようやく回収されてバラされた。

工場で溶かされた俺は次に、細長いボルトにされ、自動車のタイヤを支えるボルトになった。

この仕事はキツかった。

いつもいつも俺は遠心力との闘いだった。

しかし、俺と今回のナットとの締め付け具合は最高だった。

俺は奴に惚れ、奴も俺に惚れた。

相思相愛だった。

俺達はいつも仲良く手と手を離さなかった。

しかし、自動車は俺達より先にエンジンがやられて動かなくなった。

俺達はスクラップ工場に運ばれ解体されることとなった。

無情にも俺達はガリガリという音と共に引き離された。

俺は叫んだ。

ナットーっ、またどこかで会おう！

奴も叫んだ。

わかったわっ！必ずやまた！

二人はバラバラになり、そして溶けあった。

俺は大きなボルトになった。

電気を送る鉄塔を支えボルトになった。

今度の仕事は風との闘いだった。

何とか倒れないように俺達はお互いを強く引き合って耐えた。

その時隣になったボルトはかなりのつわもので、俺と話しがあった。

俺達は長い時間そこでボルトについて語った。

ボルトとは何だろうか。ドコから来てドコに行くのか？

ボルトとはどうあるべきか？

ボルトとはこの先どうなるのか？

ボルトに未来はあるのか？

ボルトの夢は？希望は？

ボルトに科せられた運命とは？
長い長い間。

そして俺達は静かに時を重ねた。

俺達はどうとうバラされることになった。

電気の線は地中に埋まり、俺達の鉄塔は用済みとなった。
俺達ボルトは工場に運ばれて溶かされた。

久しぶりのいい風呂だった。

心も体もポカポカだ。

しかし湯上がりの俺は、俺は鉄の延べ棒になった。

俺は首を傾げた。未来はボルトは必要ないのか？

俺は悲しくなった。

こんな終わり方があるか！

俺はまだやれる。やれるぞ！

どれくらい寝ていたのか、俺は起こされた。

久々にまたあの、忘れていた熱さで目が覚めた。

俺は小さなボルトになった。

次の俺の仕事はロボットの部品を留めるボルトだった。

赤子を寝かしつけるための揺り籠ロボットのボルト。

しかも相手のナットは奴だった。

久しぶりに会う奴は相変わらずいい締め付け具合だった。

俺達はお互い微笑みあった。

赤子はスヤスヤと寝ていた。

これは夢か？

こんな幸せなボルトがあるのか？

まあいい。夢でも。

俺は赤子の寝息に、うとうとしたのだった。

おしまい。

いかがでしたか？

今日のオススメのカクテルの味は。

またのご来店、心よりお待ちしております。では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1031d/>

ラブカクテルス その28

2011年1月26日00時11分発行